

あわれみの神

シリーズ～福音の力～

2020/06/21 父の日礼拝

ルカによる福音書13章1～5節

ちょうどそのとき、何人かの人に来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」



シロアムの池を
取り巻く石段

第二神殿時代の
シロアムの池

2004年、新たに発見されたシロアムの池の遺跡

「因果応報」ではない！

- **彼らが不幸な死に方をした理由は？**

- 「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか？」
- 「あの十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思うのか？」

- **彼らは特別ではない**

- 「決してそうではない。言うておくが、あなたがたも**悔い改めなければ、皆同じように滅びる。**」×2
- すべての人は等しく罪人であり、神の裁きを受けなければならない

いちじくの木のとえ 13章6～9節

そして、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。』園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』」

実のならないいちじくの木

● 実のならないいちじくの木

- ぶどう園に植えられたいちじくの木＞おまけで植えた重要ではない木
- 主人が3年間待ったが全く実がならない
- 土地がもったいないから「切り倒せ」

● もう一年待って欲しいと主人に頼む園丁

- 「今年もこのままにしておいてください」
- 「木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません」
- たかだか一本のいちじくの木なのに、園丁は主人に頼んで守ろうとした

このたとえ話が意味すること

- 私たちも「実のならないいちじくの木」である
 - 「実」とは「悔い改め」のこと
 - ・ 「悔い改めにふさわしい実を結べ。…斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」ルカ3:8-9
 - 「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」> 私たちも切り倒される運命にある
- あわれみ深い園丁はイエス様
 - そもそもおまけで植えられた木
 - 悔い改めない私たちをあわれみ、猶予を与え、チャンスをくださっている
 - 私たちが悔い改めるよう世話をしておられる

今は猶予の期間

- **裁きの日はず来る**

- 「人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっている」ヘブライ9:7

- **生きている時間の意味**

- あわれみによって生かされている
- 神は、私たちが悔い改めることを待っておられる

- **与えられているチャンスが無駄にしない**

- 「おまけの木」にさえ目をとめておられる神
- 「五羽の雀がニアサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。」12:6